


# 学習指導改善調査 協力者 実践計画書

## プロフィール

氏名	小林 英子	
勤務先	阿賀野市立保田小学校	
研究実践の学年と教科	全校・4年生 特別活動(学級活動)	

## 今後の実践の方向

取組の視点や方向性	<p>当校には、活気に満ちあふれ、友達と何かをやり遂げることが好きな児童が多い。しかし、活動の中で「自分」を主張しすぎたり、消極的になってしまったりし、思いをうまく伝えることができずに、トラブルを抱えてしまう児童もいる。</p> <p>このような実態を受け、昨年度後半から、ソーシャルスキル教育(以下SSE)に取り組んできた。SSEは「好ましい人間関係を築くための知識を学び技能を身に付ける」ことをねらいとしている。児童には、「SSEで友達と仲良くするためのコツを学ぼう」と呼び掛け、全校体制で取り組んできている。</p> <p>今年度は、昨年度実践してきたことをさらに深めるために、「SSE年間計画」を作成し、進めている。それに基づき、毎月、徳育部が生活目標と一体化させたターゲットスキルを提示している。全校集会で「教示・モデリング」を示し、その後に「学級リハーサル」・「一般化」を行い、子どもたちへのスキルを獲得をめざしている。</p> <p>学級担任(教職員)が一丸となって実践するという意識を大切にするため、毎月のモデリングには学年部が輪番で参加することを提案し、現在実践中である。</p>																							
大まかな実践の予定	<p>毎月初めの月曜5時間目に「全校ソーシャルスキル集会」を実施する。毎月の生活目標(ターゲットスキル)は以下の通りである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">4月</td> <td style="width: 50%;">SSEオリエンテーション 「気持ちの良い挨拶をしよう」</td> <td style="width: 25%;">10月</td> <td style="width: 20%;">「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>「仲間に入ろう・友達を誘おう」</td> <td>11月</td> <td>「上手な頼み方を身に付けよう」</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①</td> <td>12月</td> <td>「上手な断り方を身に付けよう」</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>「友達の話上手に聴こう」</td> <td>1月</td> <td>「気持ちの良い挨拶を増やそう」</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>「気持ちの良い挨拶を交わし合おう」</td> <td>2月</td> <td rowspan="2">感謝の言葉を伝え合おう (温かいメッセージ③)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3月</td> </tr> </table>	4月	SSEオリエンテーション 「気持ちの良い挨拶をしよう」	10月	「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①	5月	「仲間に入ろう・友達を誘おう」	11月	「上手な頼み方を身に付けよう」	6月	「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①	12月	「上手な断り方を身に付けよう」	7月	「友達の話上手に聴こう」	1月	「気持ちの良い挨拶を増やそう」	9月	「気持ちの良い挨拶を交わし合おう」	2月	感謝の言葉を伝え合おう (温かいメッセージ③)			3月
4月	SSEオリエンテーション 「気持ちの良い挨拶をしよう」	10月	「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①																					
5月	「仲間に入ろう・友達を誘おう」	11月	「上手な頼み方を身に付けよう」																					
6月	「冷たいメッセージをなくし、 温かいメッセージを伝え合おう」①	12月	「上手な断り方を身に付けよう」																					
7月	「友達の話上手に聴こう」	1月	「気持ちの良い挨拶を増やそう」																					
9月	「気持ちの良い挨拶を交わし合おう」	2月	感謝の言葉を伝え合おう (温かいメッセージ③)																					
		3月																						

# 実践報告書

阿賀野市立保田小学校 小林英子

## ア 目指した児童の姿

SSEを通し、「リスの(消極的な)言い方」や「オオカミの(攻撃的な)言い方」ではなく、「わたし・ぼくの言い方(積極的な言い方)」を身に付けることによって、友達間で好ましい人間関係を形成し、安心して学校生活ができる児童。

## イ 手立て

### 1. SSE年間計画の作成

学校行事や「教育相談・個別懇談・子どもを語る会・アンケート(Q-U)」といった徳育部発信の活動を関連付けたSSE年間計画表を作成した。

月	保田小学校 SSE (ソーシャルスキル教育) 年間計画	徳育部
4月	4/14 気持ちのよいあいさつしよう 「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」 「あふまなな」	4/14 朝会 4/27 朝会 4/28 朝会 4/29 朝会 4/30 朝会
5月	5/12 仲間に入ろう、友達をさそおう	5/12 朝会 5/19 朝会 5/26 朝会 6/2 朝会
6月	6/2 温かいメッセージをなくして、 温かいメッセージを伝えよう *「温かいメッセージ」(温かいメッセージ)とは *「温かいメッセージ」をなくさないことには、温かい メッセージは伝えない。 *温かいメッセージは相手に伝わるが、毎日ま たの温かいメッセージを伝える。	6/2 朝会 6/9 朝会 6/16 朝会 6/23 朝会 6/30 朝会
7月	7/8 友達の出を上手にさそおう	7/8 朝会 7/15 朝会 7/22 朝会 7/29 朝会
8月	8/5 気持ちのよいあいさつを 交わそう	8/5 朝会 8/12 朝会 8/19 朝会 8/26 朝会
9月	9/6 温かいメッセージをなくして、 温かいメッセージを伝えよう *温かいメッセージをなくさないことには、温かい メッセージは伝えない。 *温かいメッセージは相手に伝わるが、毎日ま たの温かいメッセージを伝える。	9/6 朝会 9/13 朝会 9/20 朝会 9/27 朝会
10月	10/6 上手な伝え方を身に付けよう	10/6 朝会 10/13 朝会 10/20 朝会 10/27 朝会
11月	11/10 上手な伝え方を身に付けよう	11/10 朝会 11/17 朝会 11/24 朝会 12/1 朝会
12月	12/1 気持ちのよいあいさつを交わそう	12/1 朝会 12/8 朝会 12/15 朝会 12/22 朝会 12/29 朝会
1月	1/4 感謝の言葉を伝えよう (温かいメッセージ)	1/4 朝会 1/11 朝会 1/18 朝会 1/25 朝会 2/1 朝会

1日参観日に公開したり、SSE通信を発行したり、家庭用カードの取組も行い、保護者への啓発にも力を入れた。

今年度は、あいさつと温かいメッセージの取組を学期に1回ずつ取り入れ、重点的に取り組んだ。

### 2. 生活目標と一体化させたターゲットスキルの提示

「実践の予定」に記載した通り、毎月初めの月曜5時間目に「全校ソーシャルスキル集会」を実施し、児童に身に付けさせたいターゲットスキルを生活目標として、提示した。

集会を実施するに当たっては、毎月以下のような流れで計画的に取り組んだ。

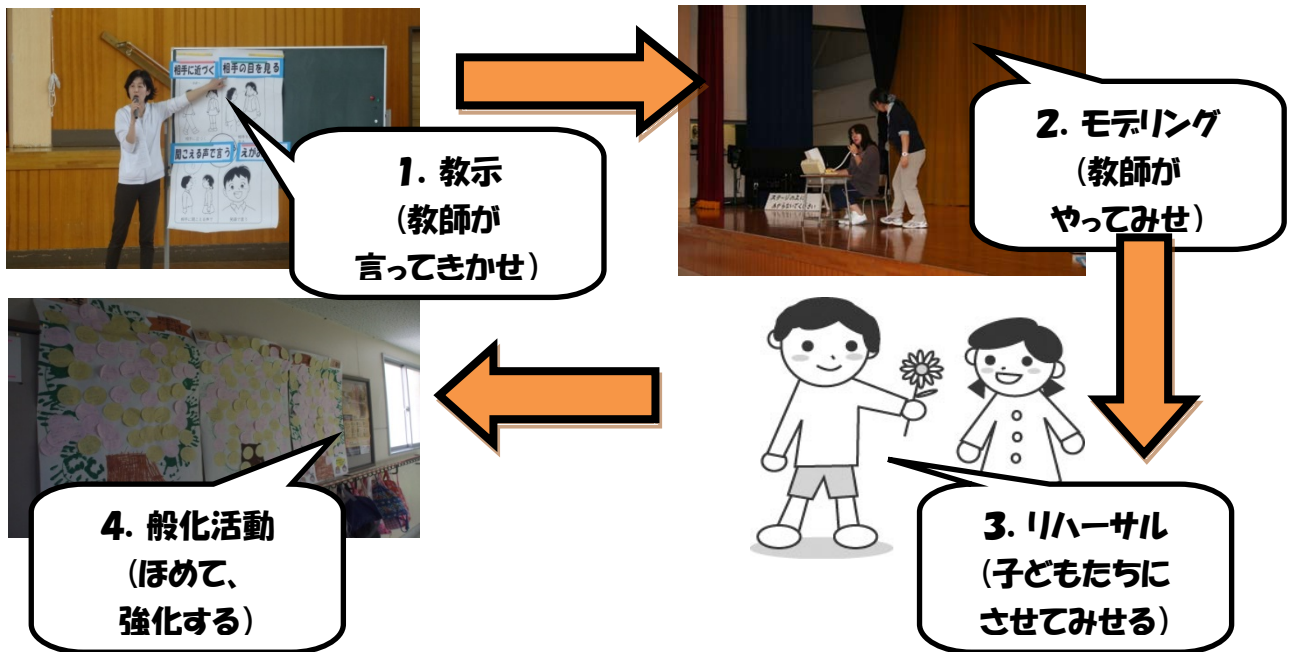
- (1) 徳育部による計画・起案
- (2) 徳育部+ (低・中・高学年部) によるモデリングの事前練習  
全校体制で臨むために、学級担任がSSEに参加することを提案。今年度は、  
モデリングに参加してもらった。

- (3) SSE集会 (月初めの月曜日5時間目)
  - ① 教示・モデリング (体育館で全校一斉)
  - ② リハーサル (教室で学級ごとにスキル練習)

} 45分間で実施

- (4) 般化活動  
(カードを活用した強化週間を設け、意識して取り組ませる。)

<「SSE集会」から「般化活動」までのイメージ>



2. 変容 Q-Uの結果から(左6月 右10月) \*6月は1年生未実施

<b>侵害行為認知群</b> <b>18%→12%</b>	<b>学級満足群</b> <b>50%→56%</b>
<b>学級不満足群</b> <b>21%→13%</b> (要支援群5%→3%)	<b>非承認群</b> <b>10%→18%</b>

わずかではあるが、満足群が上昇し、侵害行為認知群・学級不満足群(要支援群)が減少した。

一方で、非承認群が上昇している。これは、SSEの取組で温かいメッセージを意識し始めた児童が増えた一方で、自分は認められたいが満たされてはいないと感じ

る児童も増えてきたのではないかと考えられる。今後も温かいメッセージを中心としたSSEの取組を継続して行くことが必要と感じられる。

エ 課題

今年度は、「イ 手立て」にも示したような取組を計画的に進めることができた。保田小のSSEにとって成果の多い年であった。しかし、一方で、「学級リハーサル」の時間に対して職員の理解度や取組方に差がなかったかを確認することができなかった。これは、職員の多忙感に配慮したためであった。今後は、「学級リハーサルを充実させるためはどのような取組がよいのか」といったことについて来年度に向け協議を行っていく必要がある。